

2025年度
短期留学成果報告書

学年	専攻 (楽器等名)	留学先	期間
4	ピアノ	ギルドホール音楽演劇学校	10/20-11/7

1. 実施概要(具体的に)

この留学では、様々な授業や個人レッスンへの参加、パフォーマンスの機会の取得など、芸術的視野の拡大という観点において大変学びの多い、充実した日々を送ることができました。

学内の授業としては、現代音楽、即興、室内楽、指導法、試演会などのピアノ関連科目への参加・聴講に加えて、声楽や古楽器など異なる分野の授業にも触れることができました。特に印象に残った科目は、プリバード・ピアノを使用したジョン・ケージに関する現代音楽の授業です。実際にプリバード・ピアノを組み立てるところから始まり、その後幸運なことに他の生徒がケージのソナタを弾いているのを聴講したり、自分自身もバッハのプレリュードをそのピアノで試すことができました。ピアノにあらゆる物質を挟んだことによる音色の変化を身体で感じながら学ぶことができ、音の捉え方そのものが広がる貴重な体験となりました。また即興の授業も経験したことのない興味深いものでした。二台ピアノによる即興対話や、あらゆる調性内での即興など、純粋に音を聴くことの大切さを体感しました。そしてプログラム・プランニングという授業にも大変驚嘆しました。コンサートを企画する際、曲目のテーマやバランス、他楽器や他の芸術分野とのコラボをどのようにするかなど、どれもこれまで学んだことのない内容で刺激を受けました。これは室内楽や指導法の授業と合わせて、自身の進路の幅と将来像を具体的に考えるきっかけになりました。総合的に見て、ギルドホールでは実践的で必ず将来役に立つようなスキルが多く教えられている印象でした。

個人レッスンは4名の先生から合計6回受講し、持参したラフマニノフなどの課題曲を中心に、身体の使い方、手首や腕の脱力、声部のバランス、曲全体の流れの捉え方、そして作品に対するイメージの明確化など、多角的で専門的な指導をいただきました。先生方によってアプローチが異なり、同じ曲であってもさまざまな視点があることを学び、作品理解がより立体的になったと感じています。

また、自主的にパフォーマンスクラスへも申し込み、2回参加することができました。このクラスでは、ほかの学生が聴講する前で演奏を行い、その後、先生と対話しながら改善点や解釈を深めていく形式で進みました。通常のレッスンとは異なり、本番の緊張感に近い空気のなかで弾き、演奏直後の自分に対して具体的なフィードバックをいただけたことは、大変有意義な経験となりました。さらに、学内だけでなく外部のイベントとして、ショパンコンクールを振り返る会やコンサートへの参加も行い、質の高い演奏や講演に触れることで、作品解釈や音楽の聴き方にも新たな視点が生まれました。留学期間中は毎日の振り返り日記の記入、最終エッセイの作成、そして実技のアセスメントを通して、自身の経験を整理し、学びを定着させる作業にも取り組みました。

2. 留学を通じて自身が得た成果

今回の留学を通して演奏技術だけでなく、音楽への向き合い方そのものにも大きな変化が生まれました。まず即興の授業で曲を和声ごとまとめて弾いてみるというアクティビティを経験したことで、現在取り組んでいる課題曲全体の流れや和声の動きをより自然に捉えられるようになりました。これにより「聴きながら弾く」という意識が強くなったように思います。またこの即興の授業や多くのレッスンを通して音のキャラクターや色彩、質感など、音楽を視覚や触覚などの他の五感で感じ取れることを学び、より音楽の深みに到達することができたと思います。

そしてギルドホールの先生方や学生の姿勢に触れる中で、自分の演奏に対する確固たる意見を持つという姿勢の重要性を強く実感しました。これは先生方が作品の背景やイメージについて問いかけてくださったことや、試演会で生徒と先生が対等に意見交換をしているのを聴講したことで、曲の色彩や情景を自分の中でより鮮明に思い描きながら演奏する意識が育ちました。

さらに、自らの意思によって受けられる授業や参加できる科目が大幅に変わるのも驚きました。この経験によって、まず臆するより失敗しても挑戦してみるという思考が養われました。音楽的にも心理的にも、大きく成長できた留学であったと感じています。

3. 反省点

一方で、反省すべき点も多くありました。まず授業やレッスンにおいて、自分の意見や疑問を十分に言語化できなかったことが挙げられます。教授方が積極的に質問を促してくださる環境であったからこそ、もっと自ら発信し、意見交換をすべきであったと感じています。

また課題曲以外の曲を自由に弾いたり、即興や実験的な練習を取り入れたりする機会をこれまでほとんど持っていなかったことに気づかされました。ギルドホールの授業では、自由に音を試す姿勢が大切にされており、自分はそのような練習に慣れていなかったために最初は戸惑いも大きかったです。

そして生徒たちの意識がとても高いことで練習室の確保が難しく、自分の中で限られた時間内での効率的な練習方法を編み出すのに苦戦しました。それに加えて慣れない環境での生活により集中力が途切れやすく、メンタル面でのセルフマネジメントにも課題を感じました。

4. 今後の参加者に伝えたいこと(持ち物、事前学習等)

英語圏へ留学をするにあたって、言語能力は授業やレッスン、友人との会話のすべてにおいて欠かせません。一般的な英語力だけでなく、音楽用語のイギリス英語・アメリカ英語の違いにも注意が必要だと思いました。例えば四分音符はアメリカでは quarter note、イギリスでは crotchet と呼ばれるなど、事前に色々と確認しておくことをおすすめします。

イギリス留学を視野に入れる際は英語の資格検定としてIELTS が特に有効だと思います。特にリスニングはイギリス英語の発音や言い回しで行われるので、それに慣れておくことで現地の授業理解が格段に上がります。一日少しずつでも、コツコツと勉強を続けることを勧めます。

また、完璧な英語を話そうとするよりも、まず自分から積極的にコミュニケーションを取ろうという姿勢が最も大切です。何気ない会話の中で友人ができることで外部のコンサートに誘ってもらえたりと、留学生活全体が充実します。そして音楽を続けていけば将来その友人たちと関わる可能性も大いに生まれるので、一生ものの友人を作ることができると言えるでしょう。

2025年度
短期留学成果報告書

学年	専攻 (楽器等名)	留学先	期間
3	MLA(ピアノ)	Guildhall School of Music and Drama	3 weeks
1. 実施概要(具体的に)			
<p>[留学期間] 2025/10/20-2025/11/07 (10/17渡英・11/10帰国) [授業] 必修科目: 7コマ+実技試験、ピアノ科目目: 26コマ、ピアノ科以外の科目: 9コマ[レッスン] 6回(小川典子先生2回、Laura先生2回、オホラ先生1回、Gareth先生1回)+コンチェルトの合わせ1回 [課題] ①Diary(Moodleで記入) ②振り返りのエッセイ(11/4提出・1000-1050 words) ③実技の試験(11/6実施・20分程度) [校舎] 主に音楽を専攻する学生が使うメイン校舎、主に演劇を専攻する学生が使う新館、ほとんどが練習室の別館の3つ [練習室] 学校が土曜日を除く毎日9:00-11:00を予約してくれ安心して練習できた。日中は空いている部屋はほぼなく、朝早くや19時以降だと比較的空き教室があり練習できた。メイン校舎は夜22:00まで練習可。ほとんどのグランドピアノはスタインウェイ。 [宿泊場所] 学校から徒歩5分くらいのフラットと一緒に留学した先輩とシェア。家は学校周辺に借りるのがおすすめ。</p>			
2. 留学を通じて自身が得た成果			
<p>ピアノの演奏技術の向上に加え、音楽に向き合う姿勢そのものに関わる大きな成果を得ることができた。特に、新しい環境の中で主体的に学びをつくり出す力や、音楽的な探究にさらに踏み込む力が身についたことは、今後の学習や演奏活動において重要な財産になると感じている。まず、人間関係や授業への参加など、様々な場面で自ら行動する必要がある環境に身を置いたことで、積極的に一歩踏み出す姿勢が強まった。授業での発言、レッスンでの質問、クラスメイトへの自分からの声かけなど、一つ一つの行動に勇気が求められたが、その積み重ねを通して新しいコミュニティに溶け込み、より積極的に学ぶことができた。この経験から、自ら学びの機会をつくる重要性を改めて実感した。音楽面では、特に即興の授業が大きな学びとなった。即興演奏では、答えのない中で自分の感覚を信じて音を出す必要があり、最初の一言を弾くまで少し緊張があった。しかし先生の音を聴きながら対話するように音を重ねることで、音楽をもっと自由に楽しみ、表現に踏み込む姿勢の大切さを体験的に学ぶことができた。この経験は表現力の幅を広げることに繋がり、譜面の再現だけでなく、曲の内側に入り込む想像力や自発性を育てるきっかけにもなった。また実技の先生方からのアドバイスは、音楽表現の本質に関わる感覚を大きく磨いてくれた。アーティキュレーションの扱い、フレーズの呼吸、ペダルによる響きのコントロールなど丁寧に見つめ直すことができ、詳細な部分まで深く学ぶことができた。異なる専門性や視点を持つ複数の先生からレッスンを受けられたことで、音に対する理解が多面的に広がり、音楽の自由さと楽しさを改めて認識することができた。これらの経験を通し、この留学は技術向上に留まらず、音楽をどう学びどう表現するかという根本的な姿勢に大きな変化を齎してくれた。環境の変化を前向きに受け入れ新しいことに挑戦し、それをさらに深めていくという一連の体験は、今後の成長の大きな支えになると感じている。今回得た主体性と探究心を大切にしながら、これからも広い視野で音楽に向き合っていきたいと思う。本当に楽しく貴重な機会になった。</p>			
3. 反省点			
<p>この3週間の留学では、大きな失敗や後悔につながるような出来事はほとんどなく、毎日を充実して過ごすことができた。先生方からも「ラッキーね!」と言われるほどお天気のよい暖かい日が多く安心して通学できたことも、落ち着いた学校生活を送れた要因の一つだと思う。出会った人々からも授業やレッスンからもたくさん学びが得られたことはもちろん、そこに行かないとできない唯一無二の経験が本当に多く、ギルドホールに行かせていただけたことを心から嬉しく思っている。欲を言えば、現地の先生の考え方や指導の仕方が日本と違う場面では、自分の意見や疑問をもっと積極的に言葉にできたらよかったと感じている。決して質問しにくかったというわけではないが、自分からもう一歩踏み込んだり取り増やせたら、自分の音楽観をさらに深められたのではないかなと思ったからだ。音楽的にも、基礎の見直しや音色の探究、曲ごとの表現の方向性など、本当にたくさん学ぶことができた。自分で見つけた課題をより深く掘り下げる力もさらに伸ばしていきたいと感じた。反省点はあまり思い浮かばないと言えるくらい多いものだったが、同時に、より高いレベルを目指すためにもっと貪欲になる勇気を恐れずに持つこと、いろいろな場面でさらに一歩踏み込む勇気を忘れないことなど、意識して磨いていけるポイントも見えた機会になった。これらの気づきや今回の素晴らしい経験から得られたことを今後の学習や演奏に活かし、より主体性を高めるともっともって成長していきたいと思う。</p>			
4. 今後の参加者に伝えたいこと(持ち物、事前学習等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験用の洋服: 私は黒のワンピースを持参した。シワになりにくいものを選んで持って行くといい。 ・靴: 普段は街をよく歩き、防犯的にもスニーカーなど歩きやすいものがあるので、試験用にローファーを持参した。 ・メインに見ていただきたい曲以外にも何曲か持っていきと良い: Performance Classなどで突然弾ける機会もあるし、授業によって演奏時間が違うため、iPadなどにPDFとしてたくさん曲を入れていくのもオススメ。 ・IMSLPというAppを入れておくとも良い: 授業で他の学生が弾いている曲の楽譜を、自分のスマホやiPadなどで出して追いかけるように先生から言われることもある。 ・折り畳み傘: 突然短時間だけ雨が降ることも多いのでどんな時も持ち歩いているほうが安心。 ・スマホストラップ: iPhoneは特にスリに合いやすいため、スマホを首から下げた上でポケットに入れてしっかり管理しておいたのが使いやすく安心だった。 ・防寒対策: 寒いと聞いていた校舎内は比較的暖かかったので、温度調節できるような重ね着がおすすめ。朝晩は冷え込むこともあり私は耳当てと手袋を頻りに使った。 ・ウェットティッシュなど: 机の上を拭いたり手の除菌として使ったり何かと便利だった。 ・水筒: 持参して便利だったものの一つ。私は利用しなかったが学校内にも給水機がいくつかある。 			